【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】令和4年10月26日(2022.10.26)

【国際公開番号】WO2021/230042
【出願番号】特願2022-521802(P2022-521802)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｐ　5/10(2006.01)
Ｈ０３Ｈ　7/42(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｐ　5/10　　Ｃ
Ｈ０３Ｈ　7/42

【手続補正書】
【提出日】令和4年10月17日(2022.10.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
第２副線路２２０の第７部分２２１および第８部分２２２の各々は、第２主線路１２０と電磁界結合する。ここで、第７部分２２１は、第８部分２２２が設けられている誘電体層と第２副線路２２０が設けられている誘電体層との間の誘電体層に設けられているため、第２主線路１２０と第７部分２２１との間の距離は、第２主線路１２０と第８部分２２２との間の距離よりも短い。そのため、第２主線路１２０と第７部分２２１との間の結合は、第２主線路１２０と第８部分２２２との間の結合よりも強い。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５８】
反射損失については、比較例１のバラン３００（破線ＬＮ１１Ｘ）では、４４００ＭＨｚ以上の高周波数領域において、仕様範囲の１２ｄＢよりも大きくなっているが、実施の形態のバラン１００（実線ＬＮ１１）では、通過帯域の全域にわたって仕様範囲よりも反射損失が小さくなっている。実線ＬＮ１１に示されるように、バラン１００においては、バラン３００と比較して、６０００ＭＨｚ付近に新たな極が生じており、この極が高周波数領域の反射損失の低減に寄与している。すなわち、第１線路２３０が設けられることによって第１線路２３０がＬＣ共振回路として作用し、当該極が新たに発生する。